コンパス薬局　瀬谷 スキルアップ勉強会

2022.06.16 喜多

第 110 回「ロケルマ®懸濁用散分包」

アストラゼネカ株式会社　深瀬　様

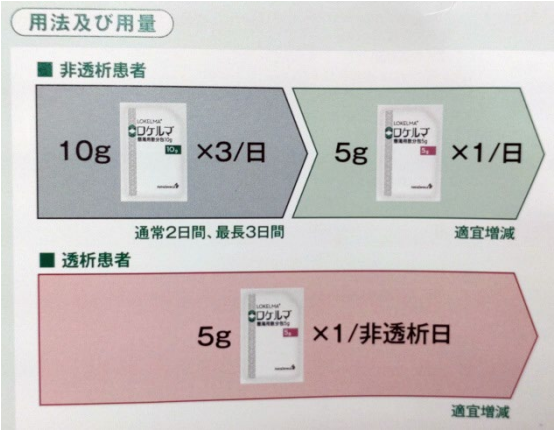
参加者：塩谷、松本、日高、川上、阿部、渡辺、相原、味田村、小西、伊藤、木本、
島崎、菅野、喜多

カリウムは、体内に存在する量がもっとも多いミネラルである。細胞の浸透圧を維持調整する働きがあるため、生命維持活動の上で欠かせない役割を担っている。また、体に含まれている余計な塩分を体の外に出す効果があることから、血圧を下げる代表的な栄養素といわれている。しかし、血中のカリウム濃度が上がりすぎると危険な不整脈が起きたり心臓が止まって突然死したりすることがある。このようなリスクを回避するために、血液中のカリウム濃度が正常範囲内であるようにカリウム摂取を制限する必要がある。今回はこのカリウム値が高い場合の治療薬の１つ、ロケルマについての勉強会を行った。

【効能・効果】

高カリウム血症

【用法用量】



■開始用量として１回 10g を水で懸濁して１日３回、２日間経口投与。なお、血清カリウム値や患者の状態に応じて、最長３日間まで経口投与できる。以後は、１回 5g を水で懸濁して１日１回経口投与。

■血液透析施行中の場合には、通常、１回 5g を水で懸濁して非透析日に１日１回経口投与する。

どちらの場合も適宜増減可能であるが、最高用量は１日１回 15g まで。

【特徴】
・無味無臭
→実際の製品見本を観察したが、小麦粉のような粉っぽいみためで無臭。懸濁後はわずかに粉っぽい臭いがあるもののほぼ無臭。

・懸濁用散剤（水にとけない）
→水に溶けない非ポリマー性のため腸管内で膨張せず、同系統薬にみられる副作用である腸管閉塞の記載がない。

・食事による服用時間の制限なし
→食事による影響を受けないため服用し忘れない個々のタイミングで服用可能

・約４５mL（大さじ３杯）の水に懸濁
→ロケルマの１回服用量が５ｇでも１５ｇでも水は４５mL でよいとのこと

【副作用】
主な副作用は浮腫、便秘（いずれも 10%未満）。
重大な副作用は、低カリウム血症（11.5%）、うっ血性心不全（0.5%）。

【薬理作用】
本剤は、均一な微細孔構造を有する非ポリマーの無機結晶であり、カリウムイオンを選択的に捕捉して水素イオン及びナトリウムイオンと交換する。本剤は、カリウムを捕捉して糞中に排泄させ、消化管内腔における遊離カリウム濃度を低下させることにより、血清カリウム濃度を低下させ高カリウム血症の改善をもたらす。

【質疑応答】
Q：透析日に使用しない理由、できない理由は？低 K になるからか？
A：透析で K 値が下がるが、１２～２４時間で K 値が元に戻るため非透析日に服用となっている

Q：約４５mL の水に懸濁とあるが、１回量が５ｇでも１５ｇでも水の量は４５mL か？
A：その通り

Q：他の高Ｋ改善薬と比べて優れている点は？

A： ①非ポリマー製剤で、水分で膨らまないため便秘になりにくいと考えられている

②カリウム、カルシウム、マグネシウムの中でカリウムを選択的に捕捉できる構造のため、他の陽イオンに影響を与えにくい

③無味無臭でサラサラしているため他の高Ｋ改善薬の味、食感が受け付けなかった人にも使いやすい

Q：添付文書の「効能又は効果に関連する注意」に「本剤は効果発現が緩徐であるため、緊急の治療を要する高カリウム血症には使用しないこと」とあるが、この“緊急の治療を要する”とは具体的にどういった場合か？

A：カリウムは正常値が３．５mmol/L～５mmol/L とされている。

この正常血清カリウム値が７～８の場合は救急車や注射薬による治療が必要になるため、正常血清カリウム値が７以上の場合には本製品での対処を行わず適切な対応を行ってほしい

【考察】

ロケルマ®は今までの高 K 改善薬と同様、消化管の遊離カリウムを捕捉し便中から排泄する。食事に関係なく摂取できるのは従来薬剤と同じだが、継続にあたって１日１回でよいため患者のコンプライアンス向上、カリウム値のコントロールに非常に有用である。また、水分による膨張がないため副作用に腸管穿孔がないこと、薬剤のカリウムへの選択性が従来薬剤より高いことも医師の薬剤選択時に有利に働く可能性があると考える。しかし、緊急の治療を要する患者には不適切であるため、投薬時には注意が必要。